

ご 挨拶

このたび、福岡歯科大学成育小児歯科学分野が主催して第31回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会を開催することになりました。人類誕生から500万年の歴史は、食文化の変遷ともいえます。人間は、硬い木の実や木の根を食べることから肉を求めて森から草原へ進出し、立って歩き走れるようになりました。それから道具や火を使って食品を調理し、柔らかな食べ物を手に入れました。その結果、大きな脳を獲得し、その代償として小さな顎となりました。進化の二十四法則のうちの一つに、器官の進化過程で、前進的進化には、反面に必ず退化を伴うことが言われていますが、口腔内の機能も退化してきているように思えます。不正咬合のお子様で、お口の機能（食べ方や飲み込み方）が劣っているお子様をよく見かけるようになりました。その子たちは、食品の軟食化からか、舌の動きが悪く咬む力がないようにみえます。また、口呼吸による、アレルギー疾患や上気道感染しやすい子ども達も多くなっています。私は、子どもの口腔機能の発達の中で、基本的な嚥下や咀嚼機能の獲得は重要だと考えています。我々小児歯科医で何か出来る事があるのでしょうか。そこで本大会では、“口腔機能と全身の健康をめざして”をメインテーマに小児の全身疾患と口腔機能に関する講演を準備いたしました。特別講演では、九州大学小児科の原寿郎教授に「小児免疫疾患と口腔」と題するご講演をしていただきます。また、教育講演には発達障害の専門家である筑紫女学園大学人間科学部の酒井均教授に「発達障害のある子の理解と対応」についてご講演頂き、発達障害児への対応法についてご教授をお願いしています。そしてシンポジウムでは、“実践！筋機能療法”と題して、筋機能訓練でご高名な大野肅英先生をお招きし、筋機能訓練の歴史と今後の展望についてお話して頂きます。また、治療目的で行う筋機能訓練ばかりでなく、小児の口腔機能育成という場からもディスカッションしたいと考えています。さらに、衛生士セミナーでは、「子どもの口腔成育と食育支援」について日本小児歯科学会衛生士認定セミナーの認可を得て行われます。このように歯科医師ばかりでなく、コメディカルの皆様も一緒に参加出来る大会を目指しました。なお、昨年と同様に保育施設も併設されますので、ご活用ください。運営スタッフ一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第31回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会
大会長 尾崎 正雄